不登校の現状に関する認識

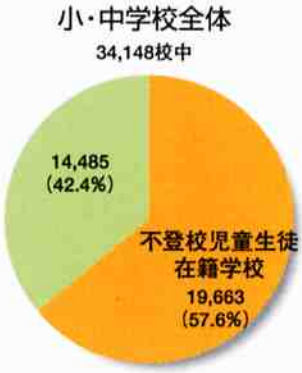
不登校とは

文部科学省の調査では、「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。

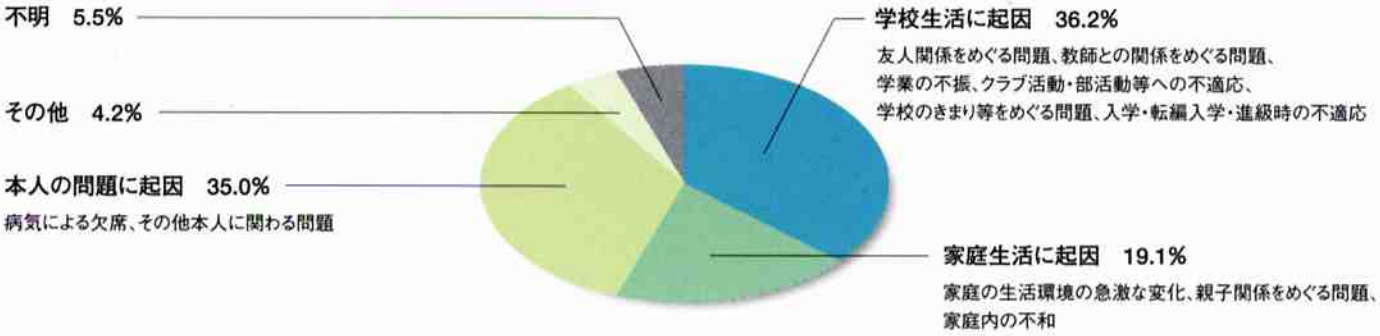
不登校児童生徒数の推移と不登校児童生徒の在籍学校数、不登校の起因

●不登校児童生徒数の推移

●不登校児童生徒の在籍学校数（平成13年度）



●不登校となった直接のきっかけ



不登校状態が継続している理由

不登校の要因や背景としては、平成13年度においては、「不安など情緒的混乱」が26.1%、「複合（複合的な理由によりいずれの理由が主であるか決めがたい）」が25.6%、「無気力」が20.5%となっています。これらの推移を見ると、近年「複合」の割合が伸びており、不登校の要因・背景の複合化や多様化の傾向があります。中学校においては、「あそび・非行」の割合が高い状況にあります。

また、不登校との関連で新たに指摘されている課題として注目されているものに、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）等があります。これらの児童生徒は、周囲との人間関係がうまく構築されない、学習のつまずきが克服できないといった状況が進み、不登校に至る事例は少なくないとの指摘もあります。

さらには、保護者による子どもの虐待等、登校を困難にするような事例も含まれており、個々の児童生徒が不登校となる背景にある要因や直接的なきっかけは様々で、要因や背景は特定できないことも多いという点にも留意する必要があります。